

鈴木 理央 絵

## 奥多摩を安全に楽しむために

東京の隠れたオアシス！奥多摩。都心から約 2 時間。「えっ！ここが東京？」とビックリする位の美しい自然が広がる奥多摩。魅力的な山がならび、澄んだ水が流れる滝や溪流もたくさん有り、帰りには温泉につかってリラックス。そんな奥多摩には、四季を通じて多くの観光客の皆様が訪れます。私も、そんな奥多摩が大好きです。

そんな魅力的な奥多摩を存分に楽しんでいただくために、お願いがあります。

### 【火災にご注意ください】 忘れない 豊かな森と 火の怖さ

空気が乾燥する冬から春にかけては山火事の発生危険が高くなります。昨年（平成 30 年）にも 3 日間かかり鎮火した山火事が発生しています。山で調理器具など火を使う場合は注意するとともに、焚火やタバコの投捨ては行わないでください。

皆様のご協力で、貴重な自然や文化財を火災から守りましょう！

### 【山岳事故にご注意ください】 午後の下り道は要注意

近年、登山、ハイキング、トレイルランなどを楽しむ方が増え、平成 30 年中の奥多摩消防署管内の山岳救助件数は 41 件で、51 名の方を救助しております。怪我を伴わない道迷いを含めるとかなりの件数となります。都心から近く、手軽に自然が楽しめる一方、「奥多摩の山は急峻である」ということも忘れてはいけません。十分な装備と余裕も持った計画により、ゴミは残さず、楽しい思い出と写真だけを持ち帰ってください。午後の下り坂は転落事故が多発。要注意です。

万が一、事故に遭遇したり発見した場合は、119 番で、事故の概要と正確な場所を通報してください。携帯アプリで座標（緯度・経度）を伝えたり、案内板の管理番号を伝えると、正確な位置が特定され、早期の救助にもつながります。詳しくは、奥多摩消防署のホームページを確認してください。



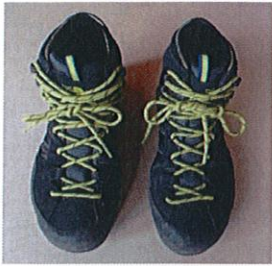
東京消防庁 奥多摩消防署長 飯田 隆

奥多摩消防署 検索

## 奥多摩山歩きワンポイントアドバイス ～靴紐の結び方～

奥多摩にも山開きと同時に春がやって来た。登山シーズンの幕開けである。この時期から山歩きを始める方も多いだろう。下山中に靴紐が緩み、集団登山で小休止を余儀なくされた経験は誰にでもある。山歩きで大切な装備は何といても登山靴であり、自分の足に合った靴選びと共に靴紐の結び方にもこだわりたいものである。

今回は解けにくく、かつ解き易い靴紐の結び方について、イアン・セキュア改良型を基に考えてみたい。次の写真では左右の紐の結び方に違いがある。



(右足は一般的な蝶結び)



(一般的な蝶結びを図解)

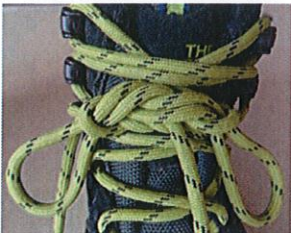
以下、この例による具体的な結び方について図示する。より分かり易くするため、きつく締めず緩めに図解している。



(一般的な結び方より一回多々ぐらせる。更に、両端を蝶結びにする時も、右の図のように一回多々ぐらせる。)



これをきつく締めた次の写真所謂イアン・セキュア改良型の発展形となる。



(この例による結び方だと紐の両端を指で引けば、蝶結びの場合同様、容易に解くことができる)

近年登山靴の進歩と共に、その靴に使われている紐についても、カラフルでデザインや素材も極めて多様である。ただ、流行に流されることなくその機能を十二分に発揮させることのできる素材を選び、自分の足を保護することが大切である。

以上は結び方の一例である。足に合った靴選びもさることながら、登山道の状態に適した靴紐の結び方を体得し、習熟して快適な登山を楽しみたい。

(富士光男)

## The Maniac Option

What kind of crazy person would do this? On a mountain trek, an hour or so above the nearest road, my wife and I were gazing at carpets of brilliant green wasabi plants. They covered stony terraces beside a pure, tumbling stream. I was amazed and curious. Who smashed rocks to build these walls? Who carried nets, poles and tools all the way up this hill? Is it worthwhile, trudging such a rugged slope? Is this all they do? How manic and how determined must they be?

At that time, we lived in the city, with city jobs. Mine involved writing and editing. I decided to write a magazine story about Okutama wasabi. The Okutama Wasabi Growers Association helped by arranging a visit to a wasabi farm operated by three local gentlemen. Becoming elderly, they had had installed a monorail up the steep and treacherous slope.

We sent a copy of the story, with Japanese translation, to the wasabi growers. Then they began inviting us to such regular functions as their AGM and year-end party. Before long we were also making the 90-minute trip from urban Tokyo to participate in volunteer activities such as hillside beautification. Toiling side-by-side at shrub planting or weed control, chatting during breaks, sharing the sun and the breeze, friendships developed easily. But it was not perfect.

"There are not enough of us. We're getting old. People are dying and young people are leaving," our new friends complained.

Our response was another question: "Does that mean there is cheap housing available?" Before long we had agreed to rent a house in Kawai with about 100 tsubo of planting area attached.

In February of 2014, after "the Big Snow", we moved from the city to Kawai. We were already part of the community and our new neighbours were more than welcoming. ...to be continued by David C. Hulme

観光ガイド デイヴィッド・ヒューム

## 奥多摩のわさびに魅せられて

要約 工藤<sup>まこと</sup>智子

急峻な山々の合間に見事に広がる緑一面のわさび田を発見した時の感動！清流の沢でのわさび栽培は都会に住んでいた我々には驚く程の重労働の賜物だった。奥多摩のボランティア活動にも参加する機会に恵まれ、5年前の大雪後、奥多摩へ移住。自宅裏での畑仕事、わさび田を借りてわさび栽培、観光ガイドのボランティア等、近隣の方々に支えられ充実した日々を送っている。

# ～奥多摩の地質 その4～

## 4. 鳩ノ巣渓谷

鳩ノ巣渓谷は、「奥多摩の地質その2」で示した海沢層の一部です。海沢層は、中生代ジュラ紀（約2～1.4億年前）に生まれたチャートと砂岩の互層で、このチャートは馬頭刈尾根や奥多摩駅前の愛宕山から大岳山方面へ続く“のこぎり尾根”、また海沢園地の三釜の滝、ねじれの滝、大滝などと同じ地層をなしています。大岳山や奥多摩の槍ヶ岳とも云われる天地山等々、風化されないで鋭く天に向かっている山は、まずはチャートではないかと考えてもよいでしょう。

今回は少し地学的な見方で鳩ノ巣渓谷（水神社付近から500m程、上流側まで行って、右岸の急な階段を登る手前まで）を歩いてみたいと思います。

（“奥多摩山歩き絵図 No.6 棚沢”を参照して下さい。）

### （1）水神社

旧一心亭旅館の前を進むと、大きな岩の上に水神社が坐しています。この大岩もチャートからなりますが、転石なのか？露頭なのか？と迷うところです。この岩の北西への連続部分が数馬の切通しです。

### （2）層状チャート（写真4-1、写真4-2）



水神社から上流へ向かい、鳩ノ巣小橋を渡って多摩川右岸を50m程上流へ行くと岩が多摩川側へ飛び出

して広がっています。ここの岩は厚さ10～100mm位のチャートと薄い泥岩が互層をなした層状チャート

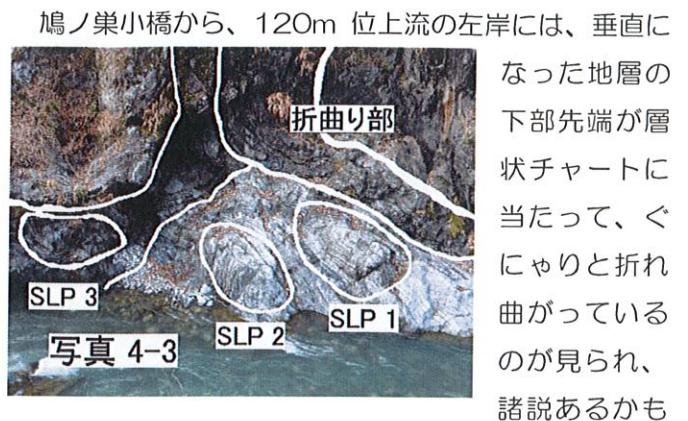


（写真4-1）と呼ばれているものです。本来水平であるはずの地層がここでは垂直になっています（写真4-2）。奥多摩で地層を見るとき、層状チャートは上記2枚の写真のように遠目でも分かりやすい特徴を有しています。

日原鍾乳洞での標識によると鍾乳石が10mm伸びるのに150年とありますが、チャートが1.6mm堆積するには1000年かかると云われております。

奥多摩では層状チャートの他に泥岩を挟まない塊状チャートもあります。

### （3）かく乱状のチャート（写真4-3）



なった地層の下部先端が層状チャートに当たって、ぐにやりと折れ曲がっているのが見られ、諸説あるかも

しませんが、この付近は堆積性メランジではないか考えています。多摩川と絶壁に阻まれ、岩種の確認ができませんが、海底地滑りやプレートが付加された時のすさまじさを物語っているのが見てとれます。

写真4-3のまるく囲った符号SLP1～SLP3の部分が後述のスランブ構造部です。

### （4）スランブ構造のチャート（写真4-4）

写真4-3には層状チャートの褶曲が見られますが、私はスランブ構造ではないかとみています。スランブ構造は、未固結堆積物が水底の斜面を重力によってすべり下ることで形成され、この作用をスランブまたはスランピング（図4-1）と呼びます。（産総研WEBより）。写真4-4は写真4-3のSLP1の部分拡大したものです。



### （5）砂岩とチャートの地層境界

対岸の、“はとのす荘”の西側端から約50m上流には、陸成の硬砂岩に、海底堆積物であるチャートが上に重なっている地層境界があります。ここより上流は硬砂岩ですが、多摩川の水に時間をかけてみがかれ、奥多摩音頭の歌詞をかりると“磨きかかった玉の肌♪”になっており、鳩ノ巣の渓谷に磨きをかけています。また、急な登り階段手前の硬砂岩中には脆弱な挟雑岩が見られ、この部分だけ著しく浸食された姿を見ることができます。

春はユキヤナギ、夏はニッコウキスゲ・クガイソウ・イワギボウシ等々の植物も楽しむことができます。

いざ「来さっせえー」鳩ノ巣渓谷へ。

参考文献 日本列島のおいたち：東海大学出版会、構造地質学：朝倉書店、日本の地質3 関東地方：共栄出版、他（本渡康隆）

奥多摩の野鳥  
～気品につつまれた野鳥～

今回はオナガを取り上げました。

オナガ：スズメ目 カラス科

見られる季節：通年

見られる場所：東日本の市街地 公園 人家のそば 木の上

スマートな佇まい、黒い帽子をかぶり尾は長く美しい青色をしています。でもオナガはれっきとしたカラスの仲間です。「ギューッ」という声を聞くとその声に驚かされます。又、分布が非常に限られており、ミステリアスです。日本では東日本でよく見られ、西日本ではほとんど見られません。東日本では市街地でも公園でも気軽に見かける事の出来る野鳥です。尾が長く飛ぶ姿も美しいのですが鳴き声が動物のけんかのように聞こえます。また飛ぶ波形も美しく浅く波打つように飛び広げた羽も優雅です。カラス同様、何でも食べます。人間の残したパンくずや、果物、鳥の卵など。

オナガ：カラス科



大澤 新次

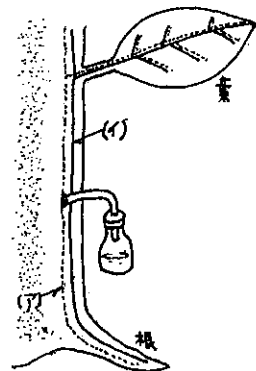
オナガを観察していると面白い事に、木や屋根の上へ移動するなど、以西に飛ぶのではなく、まず一羽が飛び続けて2羽、3羽と飛んでいく所をよく見かけます。飛ぶ姿のシルエットは本当に美しく見とれてしまいます。カラスと同じ習性をもっているため、余ったエサは屋根やビルのすきまなどに貯蔵することがあります。ただ注意したいのがオナガが庭に来ると少々厄介です。カラス同様何でも食べてしまう上に、鳴き声も非常に大きく小鳥の捕食者でもあるためオナガが居座ると他の野鳥が来なくなる事もあります。そこは、形の優雅さに免じて静かに見守ることにしましょう。

(畑幸夫)

奥多摩樹木雑考  
樹液の味のからくり

風いまだ冷たき光の春から、やっと陽光のふくよかなぬくもりを感じる春を迎えました。春は木々の冬芽がほころび、新しい芽がはじけ出る spring であると同時に、枝の切り口から水が湧き出る spring でもあります。このことを体現しているのが名のおりのミズキ(水木)、小便の木とも呼ばれているゴンズイなどです。木から湧き出る樹液に、メイプル・シロップと呼ばれるものがあります。根から吸い上げられる水には味がないのですが、早春の一時期だけ、根や幹に含まれている糖を溶かした水が、図の(ア道管)を上昇します。それを採取してつくられるのが、メイプルシロップです。私も秩父のお店で買ったシロップをなめてみたことがあります。淡い野趣をおびた甘みがありました。採取する木はイタヤカエデやウリハダカエデが使われるそうです。北海道のエゾイタヤ、カナダのサトウカエデは樹液採取に使われる木として有名です。

話題が変わりますが、葉でつくられた糖は水に溶けて(イ師管)を通して樹木全体に送られます。ゆえに、幹に傷をつけたときに滲み出る樹液は基本的に甘いのですが、病原菌や樹皮に穴を開ける昆虫の侵入に備えて、樹液の中にタンニンなどの抗菌物質を含んでいます。樹皮にはタンニンが多く含まれ渋いので、樹皮が厚いコナラやクヌギでは樹皮が菌や虫に対して防御の役をもっています。その分樹液にはタンニンが少なく甘いので、それを求めてクワガタなど沢山の虫が集まってきます。一方、樹皮が薄いアオキやアオハダでは、樹液に含まれるタンニンが多く、渋みが強い樹液になります。ちなみに、冬動物による樹木の食害が増えるのは、えさとなる草が少ないことの外に、寒さで菌や虫の害が少なくなるので、樹液や樹皮のタンニンが減り、渋みが少なくなることも理由のようです。甘かったり、渋かったり樹液がみせる“カラクリ”の一端を書いてみました。(橋上一彦)



## とっておきの山歩きガイド

### —山里歩きの楽しみ—

#### 大丹波川の流域を歩く

春の花めぐりが定番の大丹波川の流域を目線を変えて歩いて見ませんか。

#### バス停から地名を知る

まず、目につくのがのバス停呼び名、「竹の花」「塔ノ沢」「蟬沢」「八桑」など、どれも気になる名前です。どうしても地名の由来が気になって夜も寝られないという方、お名前調べに挑戦してみてください。

私は、個人的には「塔ノ沢」が気になります。箱根の温泉地「塔ノ沢」が有名ですが、大丹波地区に温泉はありません。無理やり共通点を探せば、あちらには、有名な阿弥陀寺があり、そこに石の塔があったとか。

そこで、大丹波川に沿って石の塔を探すことにしました。馬頭観音や石の地蔵さんならどこでも見かけますが、石の塔はありません。そこで、奥多摩町誌に目を付けました。探し当てたのが、町誌資料集に塔ノ沢の隣、南平に「六地蔵、灯籠形石幢、竿部なし」との記録がありました。灯籠、石幢、竿部の文字から石の塔をイメージして現地を探してみると、釜飯屋「なかい」の近くの藪の中に傾いた六地蔵がありました。

#### 東京都最後の空襲被災地はここだ!!



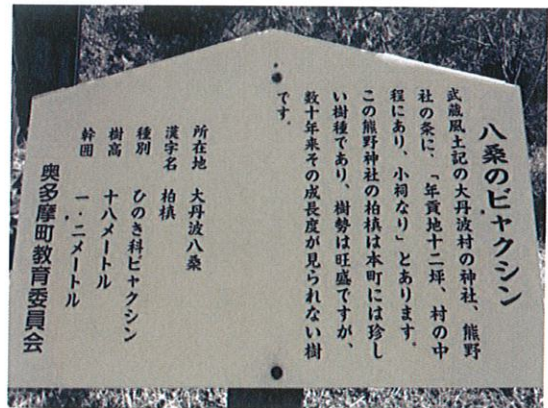
『東京大空襲・戦災誌』によると、終戦の日の未明、大丹波にB29が飛来し焼夷弾を落とした。

六地蔵周辺の家は焼失し、お地蔵さん達6人は火傷もせず無事でした。六地蔵の欠けた部分は、明治の廃仏毀釈の影響と考えられます。補修して再建すれば、ここに「石の塔」がお目見えして「塔ノ沢」由来の六地蔵塔になるかもしれません。

#### 降りて来た観音様

八桑の輪光院の境内に祀られている観音様は十一面観音で通称「名坂観音」と呼ばれています。この観音様は、かつては、名坂峠へ通じる山の中の観音堂に祀られていましたが、人間の身勝手か、不便さからか、はたまた観音様のご希望か、今は、輪光院境内に降りて来ています。山里歩き絵図を見ると、「名坂の袋窟に須弥壇として祀られていた」とありますが、地元で聞いた話によると、夏になると堂跡の岩間から「オットットー、オットットー」と声が聞こえてくるそうです。声の主は不明で誰も知らないそうです。

調べてみると、鳥の大御所・中西悟道著「多摩の鳥」に「オットットウ」があり、奥多摩野鳥探訪の折に聞き知ったのかもしれませんが。どうも仏法僧のようです。「ブッポーソー」と鳴く鳥は、コノハズクですが、日原では、「カッキントン」。ちなみに、御岳山では、「御祈祷」、高尾山では、「仏法僧」と鳴くそうです。



輪光院の近くの熊野神社に「ビヤクシン」の大木があります。この看板にある熊野神社の本殿は、大丹波の白髭神社と同じ大工さんの手で作られたようで素朴ながらも丁寧に造られています。51号で紹介した蛙股や海老虹梁など、古建築の木組を目の前で見ることができいい教材ですので参考にしてください。(岡崎 学)

## 「来させえ」アンケート結果 <その 1>

先日1月に実施したアンケートの結果についてお知らせします。(集計数10)

### ① 広報誌「来させえ」の今までの記事で興味をひいた記事

●山里歩きの楽しみ ●山歩きワンポイントアドバイス ●奥多摩遭難記事 ●奥多摩の地質

### ② 「来させえ」に載せてほしい記事

●ガイドスタッフの紹介(写真入り) ●奥多摩の歴史(なくなった集落や神社・お寺など)  
●奥多摩ならではの人と動植物との関わりや歴史

### ③ 今までのイベントで印象深いもの

●川苔山(百尋の滝、新緑シロヤシオ等) ●本仁田山(花折戸尾根) ●大岳山～海沢 ●雲取山(ヨモギ尾根)  
●六石山から石尾根 ●高丸山～日陰名栗峰 ●蕎麦粒山～鳥屋戸尾根 ●No.27 フットパス(氷川小裏から栃久保) No.30 山ふるソバ打ち・工芸) ●海沢三滝  
●フットパス海沢 SAKA ●奥多摩むかし道

### ④ 今後開催してほしいイベント

ア) 山里歩き 氷川溪谷遊歩道周辺、倉沢林道、ゆず狩り

イ) 登山 天目山(三ツドッケ)、余沢～三頭山～山ふる、境橋～御前山～小河内峠～藤原、川苔山 川乗橋～川苔山～赤杭尾根、天地山、イソツネ尾根、築瀬尾根、鋸山～大岳山、金袋山、棒杭尾根、鷹巣山～樞ノ木尾根、天平尾根

ウ) ハイキング 倉沢ヒノキ、日原巨樹、丹生神社、熊野神社、いこいの道、丹波天平、低い山をゆっくり歩く

エ) その他 マス釣りやバーベキュー、峠道歩き、体験型イベント(地形・地質を見ながら歩く)

●編集部では、年間4回発行予定の広報誌「来させえ」に、その都度何名かの会員の声を載せていきたいと考えています。2名～3名程度(200字から300字程度半ページ)の原稿協力をいただくと助かります。

## 奥多摩観光協会イベント申込み方法及びイベント案内 5月から7月

### 奥多摩観光協会イベント申込み方法

イベントに参加するには「友の会」に入会することが必要です。「友の会」入会申込書に必要事項を記入し、観光案内所に提出してください。

年会費は1000円です。

イベント参加方法(友の会会員のみ)

- (1) 事務局より年間イベントスケジュールを送付します。  
希望するイベントNo.、イベント名、申込み受付期間を確認してください。
- (2) 奥多摩町観光案内所(観光協会)まで申込受付期間内に電話してください。0428-83-2152  
時間: 受付初日 12時30分から17時00分  
2日目以降 9時00分から17時00分
- (3) 受付日より先着順で受け付けを行い、定員になり次第締め切りになります。なお10名までキャンセル待ちを受け付けます。
- (4) 会員同士(家族や友人)の申込みの場合は代表者の方が申し込みをしてください。ただし、代表者を含め3名までです。
- (5) 申し込み締め切り後、事務局より官製はがき等でイベント当日の案内を送付します。
- (6) イベント参加費は原則1000円です。ただし、自宅から集合場所、又は登山口などへの往復交通費は、含まれておりません。
- (7) 当日を含めた3日前よりキャンセル料(参加費の全額)をいただきます。注意してください。  
詳しくは観光案内所に確認してください。

### 5月から7月のイベント案内

- |       |           |                  |
|-------|-----------|------------------|
| No.5  | 5月 7日(火)  | 奥の院のシロヤシオ        |
| No.6  | 5月 8日(水)  | 川苔山(足毛岩のシロヤシオ)   |
| No.7  | 5月 16日(木) | フットパス「数馬の切通し」    |
| No.8  | 5月 22日(水) | 天目山(三ツドッケ)       |
| No.9  | 5月 30日(木) | フットパス(やまふるトレイル)  |
| No.10 | 6月 5日(水)  | 笠取山(シャクナゲ)       |
| No.11 | 6月 11日(火) | 鷹ノ巣山(標高1737m)第1弾 |
| No.12 | 6月 13日(木) | 松姫峠から奈良倉山        |
| No.13 | 6月 19日(水) | 鷹ノ巣山(標高1737m)第2弾 |
| No.14 | 7月 16日(火) | 本仁田山(標高1224.5m)  |
| No.15 | 7月 18日(木) | 奥多摩の名瀑(百尋の滝を訪ねて) |

次号発行予定: 令和元年7月15日

|    |                               |
|----|-------------------------------|
| 発行 | 一般社団法人 奥多摩観光協会                |
| 住所 | 〒198-0212 奥多摩町氷川210           |
| 電話 | 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789 |
| 編集 | 名人・達人観光ガイドの会                  |